

- ☆ チーム一人ひとりが!
- ・リスクマネジメント
- ・クライシスマネジメント
- 最低最悪の場面を想定

「たくましい昭島っ子『たくましい拝二っ子』
～グローバルに考え、ローカルに行動する人間の素地を育てる～

○ 自ら進んで考え、判断し、表現できる子を育てる。

○ 心と体をきたえ、理想をもってチャレンジできる子を育てる。

○ 自他のよさ・違いを尊重し、共生できる子を育てる。

チーム拝島二小・チーム力の結集

チーム拝二小で、児童のため 家庭のため、地域のため、市民のため！ One for all. All for one. ザ・チーム拝二小で前進！

この出会いを大切に、共に、次世代を担う子供を力強く育成すべく、推進していきましょう！

ワーキンググループではなく、共通の目的・具体的目標・アプローチの共通理解・実践できるチームへ！

家族・健康第一優先！ 明るく、爽やかな風になってください！

「仕事とは！」他者との関わり合いの中で、自分の人生を刻んでいく道程です！

I 業務指針

i 報告・連絡・相談は迅速かつ正確に行う。「これぐらいいいや」、「たいしたことではないから・・・」という安易な判断が大きな失敗を起こす。報告の際は、できれば判断も示す。

ii 苦情・相談・報告等は、一方的に聞き取るだけでなく、間合いを捉え、5W1H等で整理して相手に確認し、最後に「なぜ?」「何のために?」「その結果どうなるのか?」等の状況や影響を聴き取る。

iii 苦情・相談・報告等を受けたら、副校長に声をかけ、校長室で迅速に報告する。(共通理解・解決策の協議)

iv 苦情・相談・報告等を受けたら、その日のうちに、所定の文書に起こし、回覧する。

v 担当している授業・校務分掌の進捗状況を把握し、各種行事等について必ず論議を経て、2～4週間前までに起案する。

vi 資料・調査結果等は、必ず学年・分掌でトリプルチェック(数値・文言)を行う。

II 組織指針・チーム拝島二小

◇ ザ・チーム指導課：「拝島二小の児童・保護者・地域のため、市民のためをモットーに、課題や問題を一人で抱え込まず、チーム・組織で解決していく。

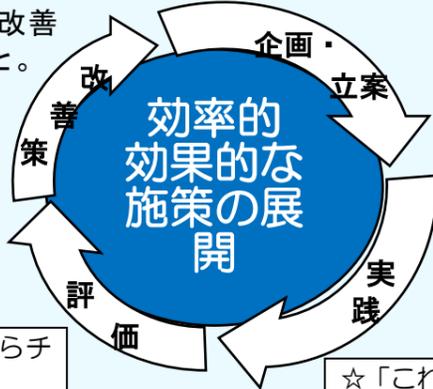
- ◇ 感情を伝え合う：「ありがとう、よかったよ、素晴らしい、助かったよ」等の感情を伝え合う。
- ◇ 対話・議論する組織：「本音を言い合い、ぶつかり合うことを恐れず、真実を追究していく。」
- ◇ 異なる価値観を認める：「理由・背景を明確にし、互いを認め、尊重する。」 Respect

◇ 組織感度を高める：組織全体が社会状況、社会の変化、未来の可能性に対する情報を敏感にキャッチし、伝え合い、組織感度を高める。

III 業務のPDCAサイクル

1 絶え間ない改善を図っていくこと。

☆前例踏襲主義からの脱却!



2 「なぜ、どうして?」を3回以上、問うこと。

☆「なぜ」と問うことにより、深い洞察ができる!

4 報告・連絡・相談を徹底すること。

☆「これぐらい〜」が誤った判断に! 迅速且つ正確に報・連・相!

IV 働き方指針

「嘘はつかないこと、約束は守ること、礼儀正しくすること、間違えたら謝ること」

- 1 『主体性をもって仕事に当たる』こと。圧倒的当事者意識!
- 2 自分に与えられた使命は何か? 施策の背景・意義・意味を正しく理解すること。
- 3 与えられた仕事の中でどれを優先させるのか、どれを先送りにするのか、を判断すること。
- 4 ワークライフ・バランス(定時退庁日の遵守・ムリな残業ゼロ)の尊重と生産性の向上

◇ 質より鮮度

◇ 適切な進行管理

V 拝島二小「議論できる」チームへ

- 1 会議や議論したい内容の目的・資料・課題(お願いしたいこと)は、原則、事前に配布・連絡する。
- 3 原則、改善事項(Action)について、議論する。PDCAの「A」を中心に議論する。
- 4 抱えている業務上の課題、困っている課題は、遠慮なく提示する。また、進捗状況を報告する。
- 5 若手・ベテランをとわず、遠慮なく自分の考えを述べる。

○ すべての失敗は、学ぶための絶好の機会である。

○ ミスをしたときに自分にやさしくしよう。(思考停止は何もならない・自虐) そうすれば将来、ミスが避けられる。

○ よほどの問題ではない限り、自分の身の回りで発生する問題は、自分の態度を変えるだけで解決する。(自分が変われば、周囲も変わる。)

○ 絶えず自分の成長を実感する!

業務遂行の大原則

タイムマネジメント：タイムマネジメントとは、時間を管理することではなく、仕事の管理である。

- 1 計画性をもって重要度の高い・緊急度が高い業務から順に行っていく。
- 2 業務遂行のための最短ルート見付けて素早く進める。
- 3 仕事は結果がすべてだと心得ること。

「悲観主義者はどんな機会を与えられても困難を見付け、楽観主義者はどんな難しい状況でも機会を見付ける」 ウィンストン・チャーチル